

ヒヤリ・ハット事例

2019.9.30までの回答分

外注作業その他

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	会社への通勤途中	雪道を走行中	カーブでタイヤが滑り、電柱に激突しそうになった。	しっかりカーブの手前で減速してからカーブに入る。			○		
2	階段で	降りているとき	一段、踏み外す。	手すりを必ず使う。	○				
3	工場	階段昇降時	見学ルーム行きの階段歩行時、床が雨で濡れていて滑りそうになった。	階段前にマットを置いた。滑り止めを貼る。			○		
4	分析室	ビーカー洗浄時	ビーカーを洗浄している時、声をかけられたため振り返ったところ、持っていたビーカーと置いていたビーカーが接触しそうになりヒヤツとした。	声をかけられた時などは作業を中断してから対応する。「1作業、1終了、1かたづけ」の徹底。	○				
5	会社事務所	歩いているとき	使用していない埋め込み開閉式コンセントの蓋が開いていて、躓いて転びそうになった。	使用していないコンセントの蓋は開かないようにする。または、通路ではないところに設置場所を変更する。			○		
6	歩道のない住宅街道路	道の反対側に渡ろうとした時	後方確認のため頭を左に向けたところ、身体まで左に逸れてしまい、後ろから来た車に接触しそうになった。安全確認をしようとしたが、車の前に飛び出す形となった。	安全確認は一時停止してから行う。	○				
7	工場入り口交差点で	通勤時に右折待ちをしていたところ	後ろに並んでいた車が自分を追い越し、先に右折しようとしたため、ぶつかりそうになった。	交差点先頭であっても、対向車の動きだけでなく、周囲(後方も)にも注意し待機する。		○			
8	工場内道路で	自転車通勤途中に	路上にあった泥水でハンドルをとられ、転倒しそうになった。	泥水のところは、降車して自転車を押して通り抜ける。			○		
9	バイオガスセンター南側入り口で	自転車で通勤時、交差点を左折しようとした際に	交差点にさしかかった車両が一旦停止せずに来たので、ぶつかりそうになった。	交差点で一旦停止しないかとも思い、注意し走行する。		○			
10	会社で	連日暑い中	連日の猛暑のため、暑さで注意散漫となり、何度かヒヤリをすることがある。	できるだけ暑さ対策をとり、事故にならないように十分に注意する。			○		

収集運搬

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動 (本人)	不安全行動 (他人)	不安全 状況	不安全 設備	重機 作業
1	成田市内で	一般道をトラックで走行中	一般道を走行中に、自車(トラック)の左側をバイクがすり抜けていった。	バックミラーで十分注意しながら運転するように心がける。		○			
2	片側2車線の一般道	積込が終了し、現場から工場に向かって走行している時	自転車専用レーンを走行していた自車が路上駐車車両をかわすため、後方を確認せずに自車両の前に出てきて接触しそうになった。	自転車専用レーンのある道路を走行する時は、自転車の動きを注意深く見ると共に、路上駐車がいる時は自車が自分の前に出てくることを想定し、いつでも止まれる速度と距離を大きく取るよう心がける。		○			
3	片側2車線の一般道	渋滞の中をゆっくり走行している時	渋滞の中をゆっくり走行している時、周囲のどこかからクラクションの音が聞こえたので、そこに意識がいき一瞬、脇見をしてしまい前の車に接触しそうになった。	渋滞中に限らず、運転中はしっかりと前を見て走行すること。また、何かがあってもそこを注視しないように日頃から習慣づけること。	○		○		
4	環状七号線 大田区平和島付近	片側2車線道路の左側車線を走行中	左車線を走行中、右車線からバイクが追い越してきた。追い越し後すぐに自車側の左車線に車線変更したが、急な車線変更と、路面が濡れていたため、自車の目の前でスリップし、転倒した。	運転時は前のみではなく、周囲の状況も注意深く捉え、法定速度以下を厳守し、不測の事態にも対応出来るようシュミレーションを行う。		○			
5	廃棄物回収現場前の一般道路	現場に到着し、廃棄物を回収するため、車から降りようとしている時	廃棄物回収現場に到着し、積込を始めるため、車両から降りようとドアを開けかけた時、すぐ横に子供が立っていて、勢いよく開けていたら怪我をさせるところだった。	勢いで行動するのではなく、周囲を自分の目でよく確認し、安全な状況を自ら作るように、日頃からシュミレーションしておくようにする。	○	○			
6	住宅街の細い裏道	住宅街の中にある現場が終了し、狭い裏道から大通りに出ようと走行している時	高齢者の方が自車方向に向かって歩いてこられたので、完全に停車して先に横を通っていただくまで待つところ、自車の横で急にふらつき、キャビンにもたれかかった。	停車していたので大きな問題はなかったが、ギリギリまで端に避けていれば、歩行者の方ももっと安心して自車横を通過出来ていたと思われる。		○	○		
7	住宅街の十字路	運転中、十字路を右折する時	向かって左の道路が一方通行で、左から十字路への進入は無いはずなのに車が飛び出してきて衝突しそうになった。	交通ルールを守らない人がいることも頭に入れ、思い込みの内容一つ一つ確認しながら運転する。		○			

中間処理・最終処分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動 (本人)	不安全行動 (他人)	不安全 状況	不安全 設備	重機 作業
1	台貫場	搬入車両検収時	車両のふちに足を掛けた時、雨でふちが濡れていて足を滑らせた。	車両に足を掛ける場合は、手すり等を握ってから足を掛けるようにする。			○		
2	展開検査場で	搬入車両を誘導しているとき	荷物のダンプ時に、廃棄物が飛び出してきて顔があたる場所だった。	荷物のダンプ時は、車両から距離をとり安全な位置にいる。	○				
3	廃棄物埋立地で	重機での転圧作業中	搬入車両と接触しそうになった。	作業半径内外にも周囲に注意し作業する。	○	○			○
4	処分場埋立周辺区域で	外柵の修繕作業中に	三脚の上部に立った時、三脚が傾きバランスを崩した。	安定する脚立を使用する。	○				
5	処理施設場内	搬入された木パレットをフォークリフトで降しているとき	木パレットの積み方が若干バラバラでバランスが悪かったため倒れそうになった。	積み込みの際にもう少し手を加えてもらう。 降ろす時に小分けにして降ろすようにする。			○		
6	非常用ピット	ピット内清掃時	昇降用のはしごを固定せずに使用して、バランスをくずし、転落しそうになった。	使用時ははしごを必ず固定してから行う事を周知した。 または二人作業として必ず補助をしてもらう。	○				
7	フレコン置き場	フォークリフトでスラッグ運搬時	メイン道路をフォークリフトでスラッグコンテナ運搬時、フレコン置き場からフォークリフトが後方確認をせずに出てきて、接触するかとヒヤッとした。	必ずメイン道路に出るときは、一時停止をして左右確認、指差呼称の徹底周知を行う。 危険を感じたら、クラクションなどで警告する。		○			
8	新保管庫前で	フレコンを運んでいる時	爪フォークの先がグレーチングに引っかかってガツンとなった。	爪フォークの先端を上げる。	○				
9	場内	場内歩行中	敷鉄板の段差につまづき、転倒しそうになった。	敷鉄板の段差部分にペンキ等で色を付ける。 パイロン等で注意を促す。				○	
10	場内	フォークリフトを運転中	U字溝の上を通行する時、直角に通り、車体が大きく揺れた。	U字溝や段差を通行する時は、斜めから入り、揺れを抑えるようにする。	○				
11	ばいじん保管庫内	ばいじんコンテナにシートがけ作業中	コンテナ側面に足をかけ、コンテナ上部に上がろうとした時、足が滑りヒヤリとした。	足に滑りやすい灰などが付着していたら、洗い落とす。 コンテナ上部へ上がる時はステップを使う、または脚立を使用する。 ※側面から上がらない。	○		○		
12	主灰建屋	コンテナ交換時	交換するコンテナ(灰が入っていない)を降ろす際、地面の凸凹に後輪が引っかかり、アームロールのフックからコンテナがはずれそうになった。	コンテナの車輪が通るところの確認をする。 できれば地面が平らなところで作業する。 できる限りゆっくり作業する。			○		

中間処理・最終処分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動 (本人)	不安全行動 (他人)	不安全 状況	不安全 設備	重機 作業
13	沈殿分離槽水中ポンプ	ポンプの接続配管の漏れを確認している時	ポンプが稼働した際、接続配管が外れ、水が噴き出し、顔にかかりそうになった。	ポンプの真上から覗き込んでいたので、水が噴き出した際に直にかかる危険があった。 確認する際はいつでも避けられるよう、立ち位置と姿勢を考慮して作業を行う。	○				
14	熱交ファンベルト器	ベルト交換時	ベルトと軸の間に手をはさまりそうになった。	工具をうまく使って、手をいれない。	○				
15	保管庫にて	ドラムにたまったスクラムを捨てるとき (フォークリフト運転中)	左側の保管中の中間辺りの溝の上を通る時に、スピードは出していなかったけど、首に少し衝撃あり。 その反動でドラムが落ちた。 落ちたドラムを再度掴もうとギアをバックに入れ、ドラムの位置が見にくかったため、サイドブレーキを引かず、ギアをバックにいれたままで降りてしまった。 少し動いてしまい、溝の上で止まる。 急いで乗って止まってヒヤリとした。	なるべく溝がないところを通る。 下車する時はサイドブレーキをしっかり引く。	○				
16	焼却炉施設内	サンダーで部材切断中	切断用サンダー刃で部材を切断していたところ、刃が部材にかみこみ、サンダーごと回転しそうになりヒヤリとした。	切断する部材の材質、切断角度等を十分に確認してから作業をする。	○				
17	右保管庫	前処理作業中	前処理作業中、床面清掃のため、人がコンボの回転半径内に入ってきた。	前処理作業中はコンボに近づかない。		○			○
18	D/Sコンプレッサー室内中水槽	水中ポンプの交換作業	故障した水中ポンプの交換作業の際、中水槽ハッチを持ち上げたところ、ハッチ取っ手が破損し、ハッチとともに引き上げた作業員も滑落しそうになった。	ハッチ取っ手が腐食劣化による破損だったため、ステンレス製に取っ手とハッチを交換する。				○	
19	灰ピット付近	燃え殻を灰ピットにあげる	燃え殻を灰ピットに入れる際に、クランプリフトで箱を掴み持ち上げたところ、この箱が重すぎてリフト後方が持ち上がってしまい、灰ピットに落ちそうになった。 プラントのトラブルで、予想より燃え殻の排出スピードが速かったため、通常より多くの燃え殻が箱に入ってしまった。 また、燃え殻にクリンカーが多く重量があった。箱から燃え殻をスコップである程度出してから空ければよかったが、大丈夫だろうと思ってしまった。	箱を小さくすることで、燃え殻が過剰量にならないようにする。燃え殻排出場所にカメラを設置する。(いっぱいになりすぎないように監視する。) 燃え殻の箱が重そうだと感じたときは、夜勤では捨てないで、日勤で人が多くいるときにスコップなどで量を減らした後に灰ピットに捨てる。	○		○		
20	G4ピット	フレコン展開作業中	G4ピットで搬入物のフレコンを開袋しようと重機でフレコンを吊り、開袋場所に移動して手元作業員にフレコンを開けてもらおうとした時、フレコンが古く、吊り紐部分が劣化していて切れてしまい、ピットへフレコンが落下した。	フレコンで搬入される搬入物については、荷下ろし時に搬入車両運転手にフレコンの状況を確認する。 玉掛け時にフレコンの状態を確認し、重機オペレータに合図する。				○	○

中間処理・最終処分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動 (本人)	不安全行動 (他人)	不安全 状況	不安全 設備	重機 作業
21	汚泥フィルター プレスコンベア 下で	下回りの掃除をして いたとき	床が汚れていて穴が見えず、足が 穴に入りそうになった。	穴開き補修依頼をし、カラーコーンを 置き注意喚起した。 1月30日補修完了。			○	○	
22	硫黄フィルター プレスで	点検時に	ろ板から液が噴出していたため、 床面に液が飛散しており、作業着 に液がかかった。	床面4S実施し、ポンプの自己循環バル ブを調整し、噴出を止めた。				○	
23	薬液タンク上で	薬液補給をする際に	薬液ホースバンドが緩んでいて漏 れており、薬液が作業着にかかっ た。	作業を中断してホースバンドを締め なおし、ホースバンドを2重化した。				○	
24	処理場内道路 で	フォークリフトでフレ コンバックを移動中、 右折しようとした際に	後方から来た車両に追い抜かさ れてぶつかりそうになった。	右折時は後方をよく見て注意し走行 する。		○			
25	新ガス精製設 備	新設された設備のため現場装置を確認し ながら移動中に	排水溝のグレーチング部の段差 でバランスを崩しつまづき、転倒し そうになった。	目線が装置に集中し、足元を見てい なかったため、足元をよく見て移動す る。	○				
26	屋外ガスドレン 付近で	ガスドレン点検に向 かい徒歩で移動中に	交差点を一旦停止せずに入ってきた パッカー車とぶつかりそうになり 転んだ。	交差点にさしかかるときは、一旦停 止して車両が来ないことを確認し歩 行する。		○			
27	リサイクルセン ター入口の交差 点で	フォークリフトでフレ コンバックを移動中 に	交差点を反対側から来た車両が 右折した際に、先がつまっていた のでバックしてきて、ぶつかりそう になった。	車両の動きに注意して走行する。		○			
28	苛性ソーダ投入 ラインで	苛性ソーダ配管内洗 浄を行った際に	雨水と薬品(硫黄系)が床に溜 まっていて、足が滑り転倒しそうに なった。	床に雨水や薬品が溜まっている際 は、バキュームし吸い出した後に作 業し、足元に注意をし歩く。			○		
29	水砕pH計ライン で	pH計サンプリングラ インの水を調整する ためバルブを開けた 際に	サンプル水が飛散し被液した。	バルブは一気に開かず、徐々に開け ていき状況を確認する。			○		
30	2号炉バーナー 床にて	バーナー孔から内部 スラグを掻きだす作 業時に	作業を途中で中止し休憩中に、炉 内部のゴミが崩れ、一瞬正圧とな りバーナー孔より炎が噴き出し た。	炉内クリーニング不足にならないよう 実施する。			○	○	